

特集：実用的 e ラーニング環境の構築と運用

作問演習システム「CollabTest」の利用促進に向けた教員支援機能の提案と教育方法の調査

高木 正則*, 金子 徹哉**, 望月 雅光***, 佐々木 淳*, 山田 敬三*, 勅使河原 可海****

A Proposal of a Teacher Support Function for Promoting Utilization of a Web-based Learning System “CollabTest” for Quiz-creation and a Survey of Educational Methods Using the System

Masanori TAKAGI*, Tetsuya KANEKO**, Masamitsu MOCHIZUKI***, Jun SASAKI*, Keizo YAMADA*, Yoshimi TESHIGAWARA****

1. はじめに

近年、学習者自らが問題を作成することで学習を進める e ラーニングシステムの開発や教育実践がさまざまな行われている^{(1)~(8)}。著者らも平成 14 年度から Web 上で学習者が問題を作成し、その問題を共有して学習を進める学習支援システム「CollabTest」の研究を行っている。CollabTest は学習者が問題を作成できるだけでなく、学習者をグループに分類し、グループ内で問題を相互に閲覧・評価できる点に特徴がある^{(9) (10)}。また、教員は学習者が作成した問題を収集して確認テストとして公開できる。さらに、学習者は学習の過程で付与されるポイントを競争できる⁽¹¹⁾。これまで、大学をはじめ小学校や高校などの教育現場で CollabTest を利用してきた。平成 19 年度には CollabTest を利用した教育プログラムが現代的教育ニーズ取組支援プログラム（以下、現代 GP と略す）に採択された。

平成 22 年度終了時点での CollabTest 利用者数は、学習者 8,653 名、教員 53 名となった。また、CollabTest の教育実践事例は 168 科目となり、作成された問題数は 22,000 問を超えた。さらに、問題の相互評価で投稿されたコメントは 52,000 件を超えた。これらの教育実践から、CollabTest は授業外学習時間を増加できる可能性があることや、CollabTest を利用した学生ほどテストの得点が高くなったことなどが示された⁽¹²⁾。また、教員へのアンケート調査では、約 7 割の教員が、CollabTest が授業に役立ったと解答した。しかし、CollabTest を活用して作問や相互評価などの教育効果を高める教育方法が明らかになっていないため、新規に CollabTest を利用する教員は授業の目標を達成するために、どの機能をどのように活用すればよいかわかりにくいことが問題となっている。そのため、CollabTest に興味を持ちながら、授業での活用に至らなかった教員もいた。また、CollabTest をうまく活用できない教員もあり、教員によるシステム導入効

* 岩手県立大学ソフトウェア情報学部 (Faculty of Software and Information Science, Iwate Prefectural University)

** 創価大学教育・学習活動支援センター (Center for Excellence in Teaching and Learning, Soka University)

*** 創価大学経営学部 (Faculty of Business Administration, Soka University)

**** 創価大学工学部 (Faculty of Engineering, Soka University)

受付日：2011 年 5 月 6 日；再受付日：2011 年 7 月 26 日；採録日：2011 年 9 月 5 日